

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 69 号 平成 23 年 8 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

麻疹様発疹症

小児科部長 安藤 郁子



去る6月の末、守山区にある某高校で「麻疹患者発生！」名古屋市が麻疹ワクチン第4期を高校2年生まで前倒しで接種することを検討中！というニュースが流れ、当院は「いよいよ麻疹患者が来るぞ～」と院内に激震が走りました。しかし幸いこの「麻疹」は違っていたようです。確かに5月半ばすぎから、当小児科では発熱を伴う発疹症の患者さんが多く見られました。まさに麻疹様発疹の患者さんを前に、年齢、熱型、皮疹や粘膜所見の特徴、ワクチン歴、その他の症状所見などから様々な疾患を鑑別に挙げつつ慎重に診察し採血検査などを駆使し診断を進めているつもりですが、結局何かかわからず「まあ夏風邪のボロでしょう」で片づけてしまうことがあります。そんな様々なウイルス性発疹症の中で麻疹と紛らわしいものに、エンテロウイルスとヒトパルボウイルス B19 感染症があります。エンテロウイルスはコクサッキーやエコーウイルスと同じ夏カゼウイルスで、夏カゼと言えば手足口病とヘルパンギーナが有名ですが、中には麻疹のような非定型的な薄い発赤疹がパラっと出るものがあり、別名「ボストン疹」ということもあるそうです。新生児がかかると血小板減少や髄膜炎など重篤化することもあり、さらにこのウイルスは便中で排出されるため、新生児室で赤ちゃんが一斉に罹患し一時閉鎖を余儀なくされたりすることもあります。ヒトパルボウイルス B19 感染症は子供では「リンゴ病」で、頬の発赤疹と四肢伸側のレース様発疹が特徴ですが、年長児から成人では麻疹様の皮疹が全身に出ることもあり、さらに発熱、浮腫、関節痛や軽度の血小板や白血球減少など多彩な病状を呈します。また重症の貧血や妊婦が罹患すると流産や胎児水腫が起こると言われています。ヒトパルボウイルス B19IgM 抗体が上昇していれば診断が可能ですが、そうでないものもあり診断は難しいです。非定型的なウイルス性発疹症の診断は非常に難しく、ただ、ただ麻疹を見逃さないように心がけて診療している昨今です。